

## 病院で採血した検査値を見てみよう

講師：臨床検査技師

病院や健康診断で広く行われている血液検査ですが、検査の結果に異常があると、心配になってしまいます。検査の項目も多くありますが、それぞれの数値は身体のだよような状態を示しているのでしょうか。どおいった病気の可能性があるのでしょうか。それぞれの数値が意味するものを検査結果の見方を解説していきます。

### 肝機能

#### ☆AST、ALT、γ-GTP

数値が高い場合は、急性肝炎、慢性肝炎、脂肪肝、肝臓がん、アルコール性肝炎などが疑われる。ASTのみが高い場合は、心筋梗塞、筋肉疾患が考えられる。

#### ☆T-Bil

高値は、異常(黄疸)となる。肝炎、肝硬変、肝がん、アルコール性肝炎、胆石症、胆道がん等。

#### ☆ALP

肝障害により胆汁うっ滞が生じると胆汁中に存在するALPが血液中に漏れ出し、数値が上がる。成長期の子供、骨の病気などでも数値が上がる。

### 膵

#### ☆AMY

血液と尿検査の両方で高値の場合は、急性膵炎、慢性膵炎の増悪、膵臓がん等。

### 筋肉関連

#### ☆CK

骨格筋、心筋、平滑筋、脳などにある酵素で、これらの組織が破壊されると数値が上がる。

### 腎機能

#### ☆BUN

腎不全に陥り腎機能の働きが衰えると、上昇する。脱水、むくみ、尿路結石、尿路の腫瘍などの閉塞性尿路疾患があると高値になる。

#### ☆CRE

腎機能をみる指標となる。男女差がある。

#### ☆尿酸

尿酸値は、男性に高く見られる傾向がある。高い状態が続くと、結晶として関節に蓄積し、突然、関節痛をおこす。痛風発作。

### 電解質

#### ☆Na

ナトリウムは、体の水分を調整する働きがある。ナトリウムが多すぎると、これを薄める為に体内に水がたまってしまい、むくみや高血圧の原因になる。

#### ☆Cl

体内の水分量やPHの調整をする。

#### ☆K

神経や筋肉の働きを調整する。K値が低いと神経がマヒし、高すぎると不整脈などの心臓に影響。

### 脂質

#### ☆TC、TG、LDL-C

増えすぎると動脈硬化を進め、心筋梗塞などにつながる。

#### ☆HDL-C

善玉コレステロールと呼ばれている。血液中の悪玉コレステロールを回収する。

\* 健常者の血清を対照に、高脂血症、肝機能異常、溶血血清を見て頂いた。

### 糖尿病関) ☆Glu

血液中のブドウ糖。エネルギー源として全身に利用される。

☆過去1~2か月の血糖の平均的な状態を反映する為、糖尿病のコントロール状態をみる。

### 血液系

#### ☆RBC(赤血球)、Hb、Ht、WBC(白血球)PLT(血小板)、血液像

### 感染症

#### ☆CRP

細菌、ウイルスに感染する、がんなどにより組織の傷害がおきると上昇する。

検査は、大きな異常がないかをはかる大切な検査です。定期受診、定期採血をお勧めします。健康診断は、「少しでも疑わしい場合は、引っかける」方針がとられています。もし健康診断の血液検査で基準値を外れているものがあれば、何らかの異常が潜んでいる可能性もあるので、慌てずに、精密検査を受けるなど適切な行動を取りましょう。異常が見つかった場合に疑われる病気については、主治医に相談しましょう。